

2026

6-7月

# はしかけニューズレター

2026年度 第2号 通巻189号

2026年(令和8年)6月10日発行

編集・発行: 滋賀県立琵琶湖博物館 環境学習・交流係 (はしかけ担当職員: 島本・中村・太尾田)

住所: 〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091 電話: 077-568-4811 ファックス: 077-568-4850

電子メール: [hashi-adm@biwahaku.jp](mailto:hashi-adm@biwahaku.jp) 琵琶湖博物館ホームページ: <https://www.biwahaku.jp/>

## ～ 目 次 ～

### 1. 事務局からのお知らせ

### 2. はしかけグループの活動報告と活動予定

- (1) うおの会 (2) 淡海スケッチの会 (3) 近江はたおり探検隊  
(4) 大津の岩石調査隊 (5) 温故写新 (6) 暮らしをつづる会 (7) 古琵琶湖発掘調査隊 (8) 里山の会  
(9) 植物観察の会 (10) たんさいぼうの会 (11) 田んぼの生きもの調査グループ  
(12) ちこあそ(ちっちゃなこどもの自然あそび) (13) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会 (14) びわたん  
(15) ほねほねくらぶ (16) 緑のくすり箱 (17) 虫架け (18) 森人 (19) 琵琶湖梁山泊 (20) サロン de 湖流  
(21) 水と暮らし研究会 (22) 内湖を知ろう会

### 3. はしかけさんが活躍する琵琶湖博物館イベント情報(6月～7月)

### 4. 学芸職員・特別研究員による研究セミナー(6月～7月)

### 5. 生活実験工房からのお知らせ

### 6. その他の事項

会員数 ... 392人  
グループ数 22グループ  
(2026年6月10日現在)

## 1. 事務局からのお知らせ

6月に入り、関西もそろそろ梅雨入りの時期を迎えます。雨の季節は、どうしても気分が沈みがちになることもありますが、田んぼにとっては大切な恵みの季節です。5月の田植えイベントで植えた苗も、雨を受けて順調に成長しています。水を張った田んぼをのぞくと、カエルや水生昆虫などさまざまな生き物が姿を見せ、初夏らしいにぎやかな風景が広がっています。

今年度から新しく仲間に加わってくださった皆さま、ようこそお越しくださいました。皆さまにとって実りある活動となるよう、スタッフ一同サポートしてまいります。

それでは、以下、事務局からのお知らせです。

### ■第1回はしかけ登録講座の会員登録手続きについて(新規登録の皆さま)

5月24日(日)～6月7日(日)に開催した第1回登録講座では、27名の方に新たにご登録いただきました。現在、会員証などの準備を進めており、発送は6月下旬頃を予定しています。少々お日にちをいただきますが、到着まで今しばらくお待ちください。

今後、はしかけグループへの入会を検討されている方は、登録講座でお配りした資料に記載の希望グループ代表メールアドレスまで、参加希望の旨をお知らせください。各グループの活動内容は以下の「はしかけニューズレター」バックナンバーや琵琶湖博物館WEBサイトでもご覧いただけます。メールでの連絡が難しい場合や連絡先が分からない場合は、本誌冒頭に記載の事務局連絡先までお問い合わせください。また、各グループの代表者・会員の皆さまには、新規会員の方がスムーズに活動へ参加できるよう、ご協力をお願いいたします。

ニューズレターバックナンバー(URL): <https://www.biwahaku.jp/news/cat28/cat32/>

はしかけグループ紹介ページ(URL): [https://www.biwahaku.jp/about/hashi\\_fr/hashikake/activity.html](https://www.biwahaku.jp/about/hashi_fr/hashikake/activity.html)

### ■琵琶湖博物館開館30周年記念、シーボルト江戸参府200周年記念企画展示「博物館はタイムマシンー魚類学者がみた琵琶湖」(第34回企画展示)開催のお知らせ

琵琶湖の魚は、古くから日本はもちろん世界から注目され、多くの魚類学者によって研究されてきました。そのため、国内外の博物館に様々な時代の琵琶湖の魚類標本コレクションが収蔵されています。最も古いものでは、歴史の教科書でもおなじみのシーボルトが200年前に収集した標本にまで遡ります。さらに標本コレクションの中には、新種記載の元となった重要な標本も多数含まれています。

私たちは過去に戻ることができないため、かつての琵琶湖にはどんな魚がどのようにいたのか知ることができません。しかし、標本はかつてその魚が確実にそこにいたことを教えてくれる、歴史のピースともいえます。膨大なコレクションを保管する博物館は、私たちが過去に連れて行ってってくれるだけでなく、現在や未来を考えるヒントも与えてくれる、まさにタイムマシンのような存在です。この企画展示では、琵琶湖博物館はもちろん国内外の博物館に収蔵されているコレクションを基に、各時代の琵琶湖をみていきます。博物館というタイムマシンに乗って、時空を超えた琵琶湖の魚を知る旅に出かけませんか。

期間は2026年7月18日(土)～11月23日(月)で、企画展示室にて開催します。企画展示の観覧には、別途観覧料金が必要です。ぜひ、ご観覧ください。

### ■情報誌「びわはく」第10号を発行しました！

毎年発行しております琵琶湖博物館の情報誌「びわはく」ですが、6月に第10号を発行しました。

今号は魚類標本の世界を特集しています。博物館ホームページにも掲載されておりますので、ぜひご覧ください。

### ■びわ博フェス2026、11月14日(土)、15日(日)に開催！

びわ博フェス2026を、11月14日(土)、15日(日)に開催します。

はしかけグループの皆様には、例年ワークショップの開催など様々にご活躍いただいています。昨年度は、参加者との交流の中で、意外な気付きがあったなどの声をいただき、とてもうれしく思いました。

今年も、普段の活動の成果や感動を、ぜひ来館される皆様にお伝えいただく機会となればと思います。また、なかなか出会う機会がないはしかけ会員同士の交流の場にもなればと思っています。グループ代表者を通じて、出展募集のご案内をお送りしますので、ぜひ、ご出展に向けて、ご準備いただければ幸いです。

はしかけ会員になったものの、はしかけグループにまだ入っていない、という方にも、びわ博フェスはグループのメンバーと交流する絶好のチャンスです。ぜひご来館ください。

### ■フィールドレポーター事務局からのお知らせ

2026年度第1回調査「滋賀の漬物調査—うちの味、わたしのおつけもん—」実施中です。

漬物は好きですか？ 漬物を食べていますか？食卓を彩る漬物ですが、食事における役割や私たちの嗜好も変化しているのではないのでしょうか。日々の食事における漬物を見つめ直してみませんか。

調査期間：2026年5月1日～7月31日

回答方法：郵送、Google フォーム

(Google フォームはこちら→)

お問い合わせ先：琵琶湖博物館フィールドレポーター担当学芸員・中村久美子 freporter@biwahaku.jp



## 2. はしかけグループの活動報告と活動予定



### (1) うおの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 19名】

グループ担当職員：田畑 諒一、川瀬 成吾

#### 【活動報告】

■4月19日(日) 第194回定例調査 場所：矢倉川 参加者：25名

今年度の活動は、朝の下見でクマの糞を発見するという、あわわ…な出来事から始まりました。糞は古く、乾いていたので危険は少ないだろうと判断し、活動続行(ちよっと迷いました)。

私(中尾)が参加した集合地付近の班では、集合地の公園の上流側でカワムツ、ドンコ、ヨシノボリ類が採集され、水生昆虫も多数みられました。公園下流側は一転して魚は少ないものの、ビワマス稚魚が採集され、琵琶湖からここまで遡上して産卵したのか、と驚きの声が上がりました。中間あたりに高い堰堤があり、その上流では人数、時間をかけてもビワマス稚魚が見つからなかったことから、はからずも堰堤の遡上阻害の実態を証明する結果となりました。

矢倉川上流へ向かった班は泥と金気(カナケ、鉄分の滲出による赤茶色の水)に悩まされ、帰還後は皆さん水道で胴長を洗っていました。魚はドジョウやカワムツが採れたそうです。下流へ向かった班は平野部で琵琶湖も近いことから、ホンモロコやビワヒガイ等コイ科の魚も多かったようで、種数も3班中最多でした。

心配していたクマの気配は最後まで感じられず、無事に調査を終えることができました。皆さんお疲れ様でした。

(文責：中尾博行)

■5月17日(日) 第197回定例調査 場所：野洲川 参加者：36名

週末は全国的に記録的な暑さになるとの天気予報通り、朝から日差しが強く、晴れすぎの空模様でした。参加者は初参加の方も含めて36名と大人数となり、駐車スペースがいっぱいとなりました。皆様の協力によりなんとか車がスペースに収まり、ほっとしました。初参加の方も多いので簡単な自己紹介と本日の調査地点についての説明後、いざ調査へ。結果、アユ、ニゴイ、ギンブナ、コイ、オイカワ、シマドジョウ類、ウツセミカジカ、ウキゴリ、ヨシノボリ類、ヌマチチブ、ブルーギルなどが採集されました。

今回の地点は投網の使用も可能であったため、皆さん各所で投げていました。何度も逃げてしまったコイと戦う姿や、たも網では捕まえない大型の魚たちの姿も見ることができてました。

魚類以外に水生昆虫、貝類、その他生物も確認され、調査終了後はプラケースに入れた生物を観察する観察会のような光景が見られました。今後の調査や記録のためにも、少しずつ種同定できるよう、魚つかみを楽しんで行けたらと思います。

(文責:竹元冨矢)

#### ■今後の予定

6月、7月と定例調査を実施します。詳細はそれぞれの活動前にメールにてご連絡します。(文責:中尾博行)



## (2) 淡海スケッチの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 11名】

グループ担当職員: 榎永 一宏

### 【活動報告】

■2026年4月26日(日) 琵琶湖博物館 参加者6名  
オープンラボでスケッチ。  
俳句部は博物館敷地で吟行句会をしました。

■2026年5月24日(日) 琵琶湖博物館 参加者5名  
仰木、棚田でスケッチ。  
俳句部は博物館敷地で吟行句会をしました。

### 【活動予定】

○2026年6月28日(日) 琵琶湖博物館  
オープンラボや敷地内でスケッチや吟行を行い、午後は句会も予定しています。  
活動時間 10時30分～(16時)

○2026年7月26日(日) 琵琶湖博物館  
オープンラボや敷地内でスケッチや吟行を行い、午後は句会も予定しています。  
活動時間 10時30分～(16時)

※持ち物/スケッチブック、鉛筆、水彩絵の具等、スケッチの道具。  
俳句をされる方は、それぞれ吟行に必要なものをお持ちください。

### 博物館 de 俳句

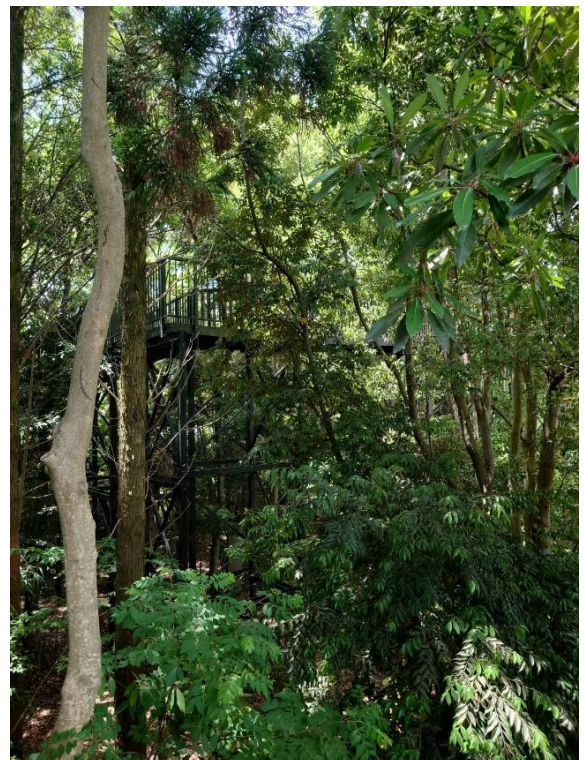
#### 4月26日 大鯰句会

はんざきの幼生ちさく歩み出す	稚鮎
親に似てあまり動かず仔はんざき	巳刻
真昼間をひそんでおりし大鯰	敦代
四月尽年輪の浮く木のベンチ	桜子

#### 5月24日に見つけた季語は？

この日、博物館の敷地や湖畔で見つけた季語は、蛇莓、蝸牛(かたつむり)、行々子(葎切)、姫女菀(ひめじょおん)緑蔭、万緑、木下闇、茂(しげり)など。ちなみに鮎や山椒魚(はんざき)、鯰も夏の季語です。

浜風やサンダルの子の抱かれて 桜子(季語/サンダル)





### (3) 近江はたおり探検隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 20名】

グループ担当職員:大久保 実香

#### 【活動報告】

##### <織姫の会>

■3月28日(土) 参加者:4名

工房に置いてある毛糸を消化するため、卓上機で機織りしたいメンバーを募集しました。お一人、早速手を挙げていただいたので、毛糸を整経して卓上機にかけました。今まで探検隊では地機しかやったことがなかったので、整経機で整経しましたが、そこまでしなくてもよかったです。次回は正しいやり方でやります。

■4月11日(土) 参加者:2名

前回の卓上機が織り上がってこられたので、第2弾。今回はやり方を教えてもらって整経しました。すごく簡単にできました。

■4月22日(水) 参加者:3名

手芸店で売られている「ポケオリ」に触発されて、小さな織り機でちょっとした織物ができないかということになり、竹で織り機を作ってみました。竹に糸鋸で切れ目を入れるのがちょっと難しいですが、なかなかよい織り機ができました。

■5月9日(土) 参加者:7名

前回の竹製織り機を増産。メンバーにはなかなか好評。また、前々回の卓上機が織り上がって帰ってきました。必要な分は織り終わったようですが、まだタテ糸が余っているので、織れるように調整してもらいました。

■5月20日(水) 参加者:4名

今回は前回の残りの卓上機を最後まで仕上げました。また、工房の田んぼ周辺のカラムシが伸びていたなので、草引きをしました。



5月9日竹の織機製作



5月20日織り上がった卓上機

#### 【活動予定】

##### ■織姫の会

6月10日(水)、27日(土)、7月18日(土)、29日(水)、8月はお休み  
(今後変更する可能性があります)

(文責:辻川智代)



### (4) 大津の岩石調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 6名】

グループ担当職員:里口 保文

#### 【活動報告】

■2026年4月の活動

○新しい活動「大津の岩石調査隊と行く観察会」、年間計画の打ち合わせ 参加者6名  
4月11日(土) 13:30~16:00 琵琶湖博物館 実習室1

大津の岩石調査隊は2014年の創設以来10年を経過した。

内部活動としては、①野外調査活動、②外部の講師も含む勉強会、③必要技術の習得として薄片の試作、④博物館行事への参加としてびわ博フェスへの参加、⑤地学研究会での発表と参加、⑥他「はしかけ」への協賛参加として昨年「わくわく探検隊」への参加を始めた。⑦論文の投稿も進めている。

一方、他の「はしかけ」メンバーとの交流はあまりない。また、博物館以外の方への当隊のPRは少ない。

「大津の岩石調査隊と出かけて岩石を観察しよう」といったような、野外調査に参加してもらって案内する企画をするのは面白いのではないかと提案があった。

これまで自分たちが調べてきた溶結凝灰岩など、自分たちが面白いと思っていることを他の人にアピールすることによって、岩石に興味を持ってもらえるなど多くのメリットがあるということで検討を始めた。

#### 検討のポイント

- (1) 隊長が試案を作り、率直かつ真剣な議論が行われた。博物館の方針、行事の経験知見も確認でき、隊員の前向きな意向も把握できた。具体的な提案には至らなかったが引き続き検討したい。
- (2) 他のはしかけメンバーを対象とした観察会を行うことを前向きに進める。一般の方向けはその結果を踏まえて検討する。
- (3) 今年のびわ博フェスのワークショップとして、琵琶湖博物館の屋上などで案内をするなどの企画をしたらどうかとの提案があった。そこから見える山の名称、地質が分るパネルを作り、それを使って30分程度で説明できるストーリーも作るなどの提案もあった。また、そのために見える山の現地調査も進めていってはどうかとの提案もあり、今後それらについて検討をしたい。
- (4) 安全対策
  - ① グループ活動と合わせて他の人を案内するためには、安全に注意し活動をおこなう。
  - ② 観察会計画書には地形図と地質図を付ける。
  - ③ トイレの場所も記載する。トイレの無い場所での調査の時はそれも明記する。
  - ④ 険しい場所での調査があるときはそれも記載する。

#### ■2026年5月の活動

##### ○野外調査 中止

5月17日 大津市の音羽山山麓の盛越川源流の流紋岩脈と花崗斑岩脈の並存部と、茶臼山公園の断層の調査を計画した。しかしクマ出没ののぼりがあり、参加希望者も少ないので調査を中止した。

#### ■今後の予定

##### ○会議 6月14日(日) 13:30～

隊長選出、びわ博フェスのワークショップやポスター発表などについて、今後の活動についてなどの議題を話し合う予定。

##### ○勉強会 7月

##### ○勉強会 8月

##### ○野外調査 9月

##### ○野外調査 10月

##### ○びわ博フェスに参加 11月14日(土)、11月15日(日)

##### ○勉強会 12月

##### ○岩石持ち寄り情報交換会 1月

##### ○新年度活動計画についての会議 地学研究発表会 2月

##### ○わくわく探検隊 岩石標本箱をつくろう! の協力・実施 2月13日(土)



## (5) 温故写新

【活動報告日の活動会員数(のべ) 12名】

グループ担当職員: 金尾 滋史、加藤 秀雄

#### 【活動報告】

##### ■4月18日(土) 草津駅周辺の写真撮影会 参加者 5名

10年ほど前に温故写新の活動で草津駅周辺の撮影会を実施しており、今回は、当時と同じ場所の写真を撮り、変わったところ、変わらないところを確認しながら歩きました。

商店街のアーケードが今はなく、アーケードの柱だけが残っていました。

今回撮影した写真も10年後20年後に貴重な資料になることと思います。

##### ■5月16日(土) 烏丸半島周辺の写真撮影会 参加者 7名

今年度のテーマである「滋賀の生き物の撮影と記録」の烏丸半島(春編)を行いました。

温故写新メンバーそれぞれが自分の興味関心のある植物や野鳥、昆虫などを撮影しました。

湖岸では、シラサギが小魚を狙う姿があり、魚をつかまえる瞬間を狙ってカメラを構えていたのですが、シラサギの動きが素早かったり、木々の枝にかくれたりして決定的瞬間は撮ることができませんでした。根気と運と撮影技術が必要です。

精進します(^^)。

## ■次回活動予定

6月27日(土) 10:00~12:00 琵琶湖博物館

内容:「写真鑑賞会」各自が撮った写真を持ち寄り、お互いに写真の撮り方を学びあいます。



## (6) 暮らしをつづる会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 1名】

グループ担当職員:大久保 実香

### 【活動報告】

4月は琵琶湖博物館のひのじいさんに、子どもの頃のお話をお聞きました。

ひのじいさんは、守山市ご出身で、お家の近くには「すし切り祭り」で有名な下新川神社があります。お祭りの様子や、野洲川の改修、琵琶湖総合開発事業で、変わっていく琵琶湖周辺の様子や暮らしの様子など、たくさんお話をお聞きすることができました。

お聞きしたお話をまとめていきます。(中尾)

### 【活動予定】

地域の人に話を聞いてまとめてみたい、自分史を書いてみたいなどのご関心がある方は、担当学芸員までご連絡ください。(大久保)



## (7) 古琵琶湖発掘調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 5名】

グループ担当職員:半田 直人

### 【活動報告】

#### ■野洲川での地層の勉強会

日時:4月26日(土)13:00~16:00

場所:野洲川(滋賀県湖南市)

野洲川で地層の観察とスケッチを行いました。講師に琵琶湖博物館里口先生をお招きし、地層の観察についてポイントを教えていただき、以前の活動で作成した粒度表を見ながら、各地層の厚さ、観察に不要なもの(雑草や染み出ている水)に気を付けながらスケッチしました。スケッチを終えた後は、参加者でスケッチした感想、地層から古琵琶湖環境がどのように変わっていったかの考察を発表しました。実際に観察すると、ある層には木片が多い、一つの層に1~3種類の粒度が混ざっている、細かい粒は見分けるのが大変、など地層の細かな状況、堆積の変化を知ることができました。

今後も定期的に地層の観察を続けていき、地層の面からも古琵琶湖を学んでいきます。



粒度表で地層の粒度を確認しながらスケッチ



地層を見ながら古琵琶湖の環境を想像

### 【活動予定】

■5月31日(日)13:00~16:00

三重県服部川での発掘調査(雨天の場合:咽頭歯化石の観察・同定作業)



## (8) 里山の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 19名】

グループ担当職員: 奥田 岬

### 【活動報告】

#### ■4月11日(土) 春の里山体験教室 下見 会員12名

野洲市大篠原にて春の里山体験教室の下見を行いました。まだ桜がきれいに咲いている中、野草を観察しながら散策コースを確認しました。例年に比べると野草の伸びが遅めでしたが、それでもたくさんの植物を見ることができました。散策から帰ってきてからは、みんなで集めた野草を並べ、詳しい会員さんに教えてもらいながら種類の確認を行いました。



#### ■4月19日(日) 春の里山体験教室 本番 会員7名、一般参加者22名

4月にしては暑いくらいの陽気の中、春の里山体験教室を実施しました。

午前中は野草散策をしました。下見の際には咲いていなかったシャガの花が見られるなど、1週間で里山の様相も少し変わっていました。

午後はスタッフから里山についての話を聞き、丸太切りと木の名札づくりをしました。散策中にも見られたヒノキや広葉樹の丸太をノコギリで切ります。丸太を持った時に、「思ったより重たい」、「こんなの切れるかな」と言っていた参加者のみなさんも、集中して切ることができました。切ったものを紙やすりで磨いてマジックで名前を書いて名札にしました。

参加者も多く大変にぎやかな回になりました。



### 【今後の活動予定】

6月1日(月) 潮干狩り

6月13日(土) 里山体験教室(夏) 下見

6月21日(日) 里山体験教室(夏) 本番



## (9) 植物観察の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 11名】

グループ担当職員: 芦谷 美奈子

今年は、ソメイヨシノが3月27日頃咲き始め、次の日、昼間の気温が高かったためか、たった1日で二分三分咲きから八分咲きの満開状態になった。ただ、昼間は20℃を越える日があっても朝夕は冷え込むことが多く、鈴鹿スカイライン(御在所岳と鎌ヶ岳の間を通るR477国道)では、4月5日にはタムシバが満開、アカヤシオやミツバツツジのなかまが山の中腹で咲いていた。このルート上では、ヤマザクラは4月11日に満開、日が経つと共に少しずつ咲く花の変化を楽しむことができた。

## 【活動報告】

■4月5日(日)「博物館周辺の観察」琵琶湖博物館 10:00~12:30

参加者7名

久しぶりに博物館周辺を見よう、ということで、博物館の正面玄関に集まった。

まずは、いつも観察するハウチワカエデ(今年は多くの花をつけている)、イロハカエデを見た。どちらも、ちょうど花が咲き始めたところで、まだ蕾が多い。咲いている花を見ても、雄しべばかり目立つ。今雄しべがある花の中に雌しべがあるのか？ いくらルーペで見ても分からない。少し日が経つと雌しべが見つかることは分かっている。では、いつ頃、雌花？雌しべ？が出てくるのか？ 同じ花房の中に雌花が別にあるのか？ 今咲いている雄しべだらけの花の中から雌しべが出てくるのか？ ウーン、来週もう一度個々で見よう、ということになった。

次に、カツラ(芽だし、花はすでに無い)、シナノキ(芽だし、今年もタケウチトゲアワフキの幼虫の巣がある)、セイヨウシャクナゲ(花)、ヒュウガミズキ(花)を観察。ヒュウガミズキは、満開を少し過ぎていたため、きれいに咲いている花を見つけて細部を見たり、葉の葉脈、形、新芽からの開き方を見たりした。

この辺りから少し歩くスピードを速めた。イカリソウ(花)を捜して、セキショウの花を見つけた。10cmほどに伸びた細長い円錐状の花が地面から出ている。持つと花粉が手に付いた。どんな花の構造になっているのかルーペで観察したところ、1mm四方の周辺を雄しべが囲み、真ん中に雌しべがある、そんな小さな花が無数に付いていた。

歩きながら、ノグルミ(芽だしはまだ、昨年の実が枝に残っている)、スイショウ(昨年の実が枝に残っている)、クヌギ、アベマキ(芽だし)(クヌギとの見分け方2つ、葉裏に毛があり白く見える、幹に弾力があり押すと柔らかい感じ)、周辺にあったクサイチゴ(花、つぼみ)、ヘビイチゴ、ヤブヘビイチゴ(花)を見て、時間切れとなった。



■5月3日(日)「お出かけ観察」瀬田公園 大津市 9:45~13:20

参加者4名

大型連休の中での活動だったが、渋滞や混雑もなくスムーズに行えた。

駐車場のユリノキは、満開。入り口付近のカマツカも満開だった。タカノツメ、モチツツジ、ヒメコウゾは、咲き始めらしく、蕾が多かった。

この日は、クロバイの花を見ることを目的にしていたが、今年は例年より2週間ほど早くクロバイが咲き始めたため、なかなか花を見る事が出来なかった。仕方なく、クロバイ(幼木)の葉の形や特徴を見ながら進んだ。数カ所でクロバイの花が地面に落ちていて、「こんな花だ」と見ることは出来たし、帰り際に湿地側で満開になっているのをやっと1本見ることができた。

歩きながらこの日見たものは、ヤマコウバシ(初めは分からずスマホで検索)、サワフタギ、クロミノニシゴリ(蕾)、ガズミのなかま(コバノガズミか、オトコヨウゾメか?)、ツボスミレ(花、蕾)、ヤマウルシ(花、蕾)、コマツカサススキ(昨年の実が残っている)、セリバオウレン(結実、あちこちに沢山ある)、ハナミョウガ(結実残っている)、ナルコユリ?(チゴユリにしては背丈が高い、実が無くて不明)。また、湿地でトンボを観察している方から、サラサヤンマの抜け殻、ムカシヤンマの羽化途中の個体を見せてもらったのは、貴重だった。

帰り際に、メンバーに持参してもらったハイノキ(花、クロバイに比べて花柄が長く花付きの数が少ない)、ハナイカダ、アベマキを見せてもらい、解散。



## 【今後の活動】

■ 月に1回、第1日曜日の午前または午後を予定しています。

■ 外部へのお出かけの場合は、これに限らず、変則的になります。

基本的には、危険が無く雨でも歩ける所で、大雨や警報が出ない限り「行く」方向でいます。

■ 8月、2月は、例年お休みしています

■ 6月7日(日)「お出かけ観察」近江富士花緑公園 9:30~12:30 ごろ

■ 7月5日(日)「観察実験してみよう」博物館 実習室 10:00~12:00 ごろ

■ ※新型コロナウイルス、インフルエンザ等の感染拡大等によっては、お休みになることがあります

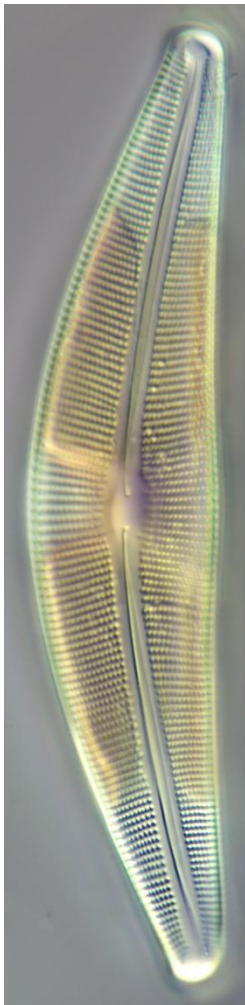
## 【活動報告】

たんさいぼうの会第81回総会を、琵琶湖博物館研究交流室4月5日(日)13:30~15:00に開催しました。オンラインを含めて8名の参加がありました。Webページの充実と今年度の活動計画について話し合われました。また、会員それぞれの活動の進展状況が紹介されました。

総会后に、ML登録メンバーに活動継続の意志を聞いたところ、はしかけ登録を更新して活動を継続する会員(正会員)が10名、はしかけ登録をしないがMLでの情報交換のみ希望する「準会員」が4名になりました。

会員の安達さんが自宅近くの堅田内湖で大量増殖しているのを発見した *Sellaphora constricta*(右図、スケールバーは0.01 mm)の報告を、九州諸河川からの報告と併せて論文化し、5月11日に珪藻学会誌 *Diatom* に投稿しました。第一著者以外は、安達さん、根来さんと会員が共著者に名を連ねており、影の会長が最終・責任著者となっています。7月頃には最初の審査結果が返ってくると思います。本種は中国から2017年に新種報告された「科学的に新しい」種で、日本からは2009年よりも前にはそれらしいものが発見されておらず、おそらく外来種です。

たんさいぼうの小さな旅「安曇川・ミズワタチビルケイソウ調査」に、5月24日(日)に行ってきました。参加者は影の会長と会員4名でした。そして話を聞きつけて集まってきた野次馬(元会員など)3名も見学者として加わりました。調査範囲は村井橋から上流300mあまりまでの右岸です。ここには流路に沿って200m以上にわたり、流れが緩い浅瀬が広がっており、ミズワタチビルケイソウが集中的に繁茂しています。繁茂状況は調査開始以来最悪で、ミズワタチビルケイソウが過少の広い範囲を覆っており、一部はミズワタのようにたなびいていました。ただし本流の流れがやや速い場所には、ミズワタチビルケイソウの繁茂は肉眼的には全く見られず、分布が拡大していないことも伺われました。



調査中に会員の畑中さんが興味深い現象を発見しました。減水気味で一部が空気中に露出したミズワタチビルケイソウのコロニーに、ナガレヒキガエル幼生(オタマジャクシ)が蟻集して盛んに摂食していたのです(右図)。ミズワタチビルケイソウが繁茂するとアユが嫌って石につかなくなり、繁茂率が高い場所からはいなくなることが知られています。また、カゲロウやトビケラの幼虫など、多くの刈り取り捕食をする水生昆虫も物理的に食べにくいために寄り付かなくなることが知られています。ミズワタチビルケイソウが河川で蔓延する一因は、このように多くの河川動物に食べにくいことにあると考えられていましたので、ナガレヒキガエル幼生は意外な「伏兵」でした。また、博物館に戻って顕微鏡観察したところ、コロニー内には多くのミズミズ類が入り込んでいて、ミズワタチビルケイソウを食べていることが明らかになりました。



純群落をつくると思われがちなミズワタチビルケイソウですが、そのコロニーの内部には意外にも多くの多種の珪藻が混入しています。特に多いのは粘質の柄に付着するツメワカケイソウのなかまや、群落の中を滑走運動で移動しながら生活しているフナガタケイソウやササノハケイソウです。実はこれ以外にも、ミズワタチビルケイソウと同じくらい巨大な別のクチビルケイソウ、*Cymbella amoyensis*(左図;スケールバーは0.1 mm)が混生している場合があることもわかってきました。今回の調査でも少数ながら発見されました。

他にも野田沼・曾根沼(彦根市)の珪藻、瀬田公園(大津市)の珪藻など「たんさいぼうの小さな旅」で採集してきた珪藻の報告や、堅田内湖(大津市)、千種川(兵庫県)、黒沢湿原(徳島県)の珪藻研究も、少しずつですが進めています。

## 【活動予定】

兵庫県立人と自然の博物館で6月20日(土)、21日(日)に行われる日本珪藻学会第47回大会には、今のところ影の会長を含めて3名の参加が予定されています。ただし、今回はたんさいぼうの会名義での発表は予定されていません。



## (11) 田んぼの生きもの調査グループ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 13名】

グループ担当職員:鈴木 隆仁

桜が終わったと思ったら、急に暑くなってきました。大型連休中に田植えが終わった田んぼも多く、初夏らしい風景です。博物館では実験工場の田んぼの田植えが5月10日にあり、残った稲を分けてもらい、田んぼの生きものグループも屋上コンテナに稲を植えました。今年もカブトエビが出てくれるでしょうか。

### 【活動報告】

■5月10日 調査準備会 出席13名

- ・新たに1家族4人の方が加わっていただきましたので、全員の自己紹介と会の趣旨説明がありました。
- ・今年度広域調査の日程と場所を確認しました。

5月24日 東近江市岡田町から土器町、尻無町にかけて

5月30日 甲賀市土山町大野から水口町和野にかけて

6月7日 野洲市大篠原・小南から近江八幡市安養寺町にかけての予定です。

- ・これらの調査地以外に、個人調査の候補地が地図で示されました。

大津市、草津市、栗東市、守山市周辺で15年以上調査されていない地域

長浜市木之本町千田、西浅井町塩津浜のホウネンエビ

京都市左京区岩倉・大原周辺

### 【活動予定】

- ・このニューズレターが発行される頃には終了していると思いますが、上記日程通りに広域合同調査を行います。
- ・個人調査は、上記の場所以外でも日々行う予定です。
- ・調査終了後は、夏休みに採取したエビ類の同定と整理を行います。
- ・新たに参加を希望される方は、担当学芸員(鈴木さん)までご連絡ください。

(石井 千津)



## (12) ちこあそ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 6名】

グループ担当職員:中村 久美子

※一般参加は、びわ博ホームページからのオンライン予約制です。また10時から14時までの一日の活動としています。(お子さんの様子に合わせて、いつ来ても、いつ帰ってもOKです。)

### 【活動報告】

■4月の活動 4/15(水) 11組(幼児14名、大人13名)

4月のちこあそは、毎年恒例のタケノコ掘り。子どもたちと竹林に入っていくと、最初は全くタケノコが見つかりません。しかし、バンダナおじさんに教えてもらいながら、目を凝らしてよく見てみると、地面から小さくタケノコのでっぺんが出ているのが見つかるようになります。「見つけたー」と喜んで、スコップで掘っていきます。硬い地面を掘って、最後はバンダナおじさんにも手伝ってもらって、大きなタケノコが！時には小さい小さいタケノコも！掘れました。みんなで掘って40本以上見つかりました。バンダナおじさんは、管理のため、生活実験工房裏の竹林で毎日のようにタケノコを掘っていますが、みんなで掘った今日は一番見つけられたとのこと。お好きな方には、ゆがいたタケノコを持って帰ってもらい、お家でお料理してもらいました。

雨がシトシト降って来た午後は、カッパを着て田んぼの周りで生き物探し。生き物はなかなか見つかりませんが、ぬかるんだ田んぼの感触が楽しくなって、結果泥遊びになりました。雨でも泥でも、遊びにしよう子どもたち。すごいなあと思います。

■5月の活動 5/20(水) 10組(幼児13名、大人11名)

田んぼに水が入って、田植えが終わると、一気に生き物が増えています。カエル、オタマジャクシ、シマゲンゴロウ、コシマゲンゴロウ、コガムシ、ホウネンエビ、アメンボ、ヤゴなどが見られました。子どもたちは生き物たちを捕まえようと一生懸命に田んぼを覗き込んで、一方お母さんたちは田んぼに落ちないかドキドキ、楽しい時間です。

畑にサツマイモ苗(鳴門金時)を植えました。毎年サツマイモ苗を植えて、秋に収穫しますが、近年は育ちが悪くとも小さい芋でした。今年こそ大きな芋になりますようにと祈りながらの畑仕事を子どもたちと行いました。

畑の周りにも生き物がいろいろ。ヒモワタカイガラムシは、白い綿のような体をしています。アゲハやナガサキアゲハが産卵して、幼虫がキンカンの葉をムシヤムシヤ食べていたり、羽化したてのシオカラトンボが飛んでいたり、タイワンタケクマバチがガズミの花に集まっていたりと、賑やかです。

■あたらしいちこあその絵本ができました！絵本をプレゼントしています

半年間をかけて、ちこあその田んぼの1年を楽しめる絵本を製作しました。前回に続いて2作目です。新旧の絵本を楽しんでもらえるようになりました。

3回スタンプがたまると、絵本がもらえます。お家で絵本を読んで、室内でもちこあそを思い出して欲しいとの思いです。ぜひ3回来てください。



4月 アシナガバチが巣作り



4月 竹林でタケノコ掘り



4月 たくさん掘れた！



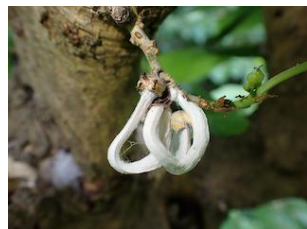
4月 雨の田んぼ遊び



5月 甘酸っぱいくサイチゴ



5月 サツマイモ苗植え



5月 ヒモワタカイガラムシ



5月 アオダイショウもいたよ

今回のちこあその報告は、代表の池田勝(まっちゃ)が担当しました。

【今後の活動予定】びわ博ホームページで1か月前から参加予約ができます。8月はお休みです。

活動月	実施日、時間	タイトル	内容
6月	6月17日(水) 10:00-14:00	ちこあそ6月	定員10組 予約制です。びわ博イベントHPからお申し込みください。 毎月おおよそ第3水曜日に行っています。
7月	7月15日(水) 10:00-14:00	ちこあそ7月	ルーペでの自然観察、森の探検、ガチャコンポンプの水遊びなど やさしい自然遊びを子どもや保護者の方とゆっくり、ポチポチ過ごします。

はしかけの新しいメンバーも飛び入りも大募集中です。一緒に子ども達と遊びましょう！



(13) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 36名】

グループ担当職員:大塚 泰介

【活動報告】

■ 2026年3月29日(日) 参加者:16名、学芸員:1名

博物館前のプランクトンを観察しました。筆者は今回ヒゲナガケンミジンコを観察したいと思っていたのですが採集したサンプルにはほとんど入っていませんでした。

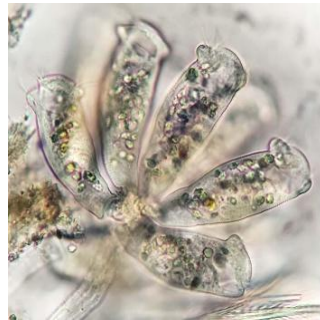
その代わりにではないですが3種類の生物が付着したケンミジンコが見つかりました。体には群体性のツリガネムシの仲間、触覚には吸管虫、体全体にコラクウム(?)が付着していました。

■ 2026年4月26日(日) 参加者:20名、見学者:1名、学芸員:2名

この観察会では普段、博物館前でプランクトン採集を行い観察していますが、それ以外にも自宅周辺で採集したプランクトンを観察する方や自身の研究成果を持ち込み、学芸員や当会メンバーに発表・相談する方など、メンバーそれぞれが多様な視点で活動しています。筆者は普段琵琶湖の生き物の形態に興味を持って観察していますが他のメンバーの視点に触れることで普段と違う分野を知る事が出来るので楽しいです。



3月29日の採集の様子



群体性ツリガネムシの仲間



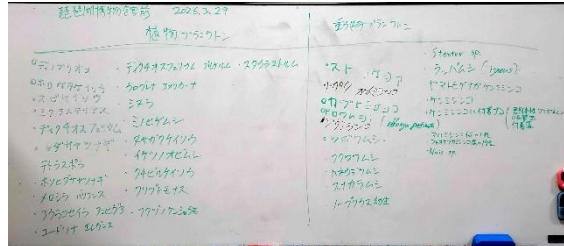
コラキウム(?)



吸管虫



様々な生物が付着したケンミジンコ



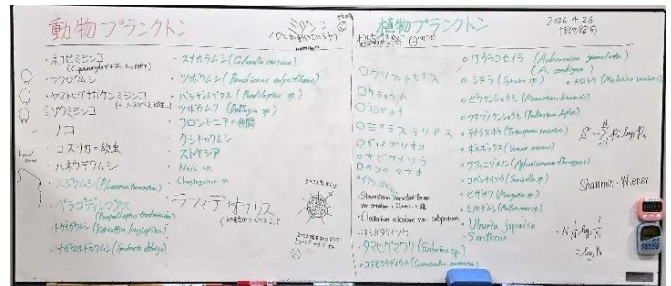
3月29日の活動で見つかったプランクトン



4月26日の採集の様子



4月26日の活動の様子



4月26日の活動で見つかったプランクトン

**【活動予定】**

琵琶湖の小さな生き物を観察する会では月に1回、観察会を行っています。見学・参加希望の方はグループ代表アドレスまでお問い合わせください。



**(14) びわたん**

**【活動報告日の活動会員数(のべ) 12名】**

グループ担当職員: 桑原 康一

**【活動報告】**

2026年5月9日(土)「春の草花でしおりをつくろう」 参加者 15名

新年度始めのプログラムは森人さんとのコラボです。屋外展示で植物を採集し、押し花にし、ラミネートでしおりを作ります。屋外展示は一見緑一色ですが、足元に目を向けると…色々な小さな花が咲いています。参加者は自由に草花を採集し、森人さんたちに草花の色々なお話を聞いていました。カラスノエンドウ、ハルジオン、ニワゼキショウ、ユウゲショウ、ヤエムグラ、スイバ、エゴノキ…どんな話だったかは、森人さんと参加者だけの秘密(\*~\*)

採集した植物を押し花キットで、レンジでチン☆すると、あっという間に押し花になります。台紙に押し花をメインに飾り付けをし、ラミネートで完成しました。

わく探終了後の振り返りで、林学芸員さんにプログラムが安定してきたので、新しいこと出来ないですか？と提案して頂きました。考えてみます!!

びわたんには、こどもはしかけさんが数名います。活動中、特に係活動のようなものはないので、プログラムの中で自分に来ること、やりたいことを探して動いています。参加者から見ると不思議な光景だと思います。久々にびわたんキッズが勢揃いして、それぞれに出来ることを頑張ってくれました。この経験がどんな風に未来につながるのか、私の今の楽しみになっています。



## (15) ほねほねくらぶ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 16名】

グループ担当職員:半田 直人、松岡 由子

### 【活動報告】

■4月11日(土) 参加者:4名

カミツキガメの除肉、アライグマの解剖、タヌキの解剖を行いました。

■4月19日(日) 参加者:6名

キジバトの解剖、キジバトの翼標本の制作、イタチの骨のスケッチ、マンゲースの解剖、キツネの組み立てを行いました。

■5月23日(土) 参加者:6名

キジバトの解剖、キジバトの翼標本の制作、ハクセキレイの解剖、カミツキガメの除肉、カメの骨の整理作業、キツネの組み立てを行いました。

この日、行ったハクセキレイの解剖は当初の予定では仮剥製を制作する予定でしたが、作業を進めていくうちに腐敗が進んだ個体だった事がわかり、仮剥製にするには向かないと思い、途中から骨格標本にする事となりました。

冷凍されている状態からではなかなか見抜けず、作業を進める途中で変更するのはしかたのない事と思いますが、作業をしていると少し残念な気持ちになります。

### 【活動予定】

6月、7月の活動予定日は現在未定ですが、月に2、3回の活動を予定しております。



## (16) 緑のくすり箱

【活動報告日の活動会員数(のべ) 29名】

グループ担当職員:大槻 達郎

### 【活動報告】

■4月25日(土) 参加者:9名

活動内容:藍の苗の定植と野草茶を楽しむ(琵琶湖博物館・生活実験工房)

今年度の緑のくすり箱の活動が始まりました。緑のくすり箱の活動では、毎年草木染めをしています。今年も藍を育てて、7月に藍の生葉染めに挑戦してみようと思います。3月の年度末総会の時に、メンバーさんに昨年度畑でとれた藍の種を配布し、自宅で種まきをしてもらい、苗を育て、生活実験工房の畑をお借りして、苗を定植しました。

種まきから苗を育てていくまでは、グループで写真を共有したり、ナメクジ対策などフォローしながら進めていきました。沢山の苗を持ち寄ることができて、定植の日もお天気がよく、スムーズに作業がすすみました。

苗の定植は、生活実験工房の畑に2畝にわたって植えました。しっかりと水やりをし、成長を見守るため、写真を撮る定位置をきめました。今後もしばらくは担当のメンバーが交代で水やりをして、観察しながら報告をしていきます。今年も順調に育って、藍の染めの作品ができるといいなと思います。

苗植えの後は、生活実験工房のまわりの野草を探し、野草茶を楽しみました。メンバーが工房のヨモギを乾燥しておいてくれたので、当日はカキドオシを摘み、ヨモギと合わせて野草茶を煎れました。



#### 【参加者の感想】

- ・藍の定植はみんなで工夫しながら植えることができました。
- それぞれの環境で育てた苗達が博物館の畑の同じ環境でこれからどのように育っていくか楽しみです。
- ・定植が終わって、外で飲む野草茶はとてもおいしかったです。
- ・メンバーさんにアドバイスを頂き、苗は4本くらいずつ間隔をあけて植えることができました。
- ・マルチをして雑草と保湿対策のある畝と、そのままの畝の違いがどうなるか楽しみです。
- ・今年は定点観測する苗を皆できめたので、より成長具合を観察できるのではと思います。
- ・暑い中でしたが、作業後に飲んだ野草茶が身体によかった気がしました。

■5月12日(火) 参加者:3名 一般参加者:大人1名

#### 活動内容:季節の植物でアロマウォーターを作ろう(生活実験工房)

今年度も琵琶湖博物館イベントの「季節の植物でアロマウォーターを作ろう」の会に緑のくすり箱と一緒に参加させていただくことになりました。春と秋、年2回です。春は定番のヨモギです。琵琶湖博物館の中庭で蒸留用のヨモギを採取しました。今年からアランビック蒸留器が変わり、今まで使用していたものより小さくなったので、一般の参加者の方には、釜にヨモギをちぎって入れてもらう作業から参加して頂きました。蒸留水も短時間で出てきます。

最初に出てきた蒸留水が、とてもツンとした香りがしたのと、色が緑色になってしまったので、再度やり直しを行いました。蒸留器は、前回使用された植物の成分が取れていないことがあるので、最初の蒸留水がツンとしてきつい香りだったのは、そのせいではないかと思いました。

出来上がった蒸留水でアロマスプレーを作りましたが、今回ゼラニウムの精油が仲間入りしたので、使う方が多かったです。蒸留が終わったあとの手浴もとても気持ちよかったです。



#### 【活動予定】

- ・6月21日(日)10:00~15:00 ドクダミチンキ作り・植物のぷっくりシール試作(生活実験工房)



## (17) 虫架け

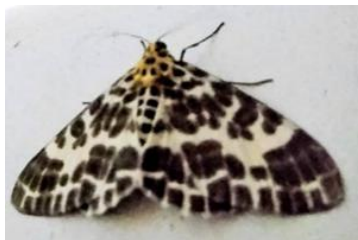
【活動報告日の活動会員数(のべ) 12名】

グループ担当職員: 今田 舜介

### 【活動報告】

■4月18日(土)17時半~23時 参加者:12名 北比良イン谷

午後19時に点灯。残念ながらねらいのエゾヨツメは飛来しませんでした。他に大型種のおオミズアオが、それ以外に小、中型の蛾類やカワゲラ、トビケラなどの水生昆虫はいろいろやって来ました。23時に灯火を終了し、現地解散しました。



また、「虫架け通信」90号、91号を発行し、昆虫に関する知識や各メンバーの報告を共有しました。

### 【活動予定】

これからも1か月に1回程度の野外調査や室内勉強会を行う予定です。観察・採集などをして、滋賀県内の昆虫の分布調査をしたいと考えています。

(文責:伊東)



## (18) 森人(もりひと)

【活動報告日の活動会員数(のべ) 24名】

グループ担当職員: 林 竜馬

### 【活動報告】

■3月28日(土) 栗東自然観察の森観察会 参加者(会員)6名、(博物館職員)林

栗東自然観察の森の代表コースAとBを回り、早春の森を観察して楽しんだ。ちょうどスプリングエフェメラルの後半を彩る山野草も観察できた。コセリバオウレン、バイカオウレンキクザキイチゲ、イワウチワ、カタクリ、ショウジョウバカマ、ナズナ、バイモ、ザゼンソウ、樹木はモクレン(紫・白・赤)、マルバマンサク、シキミ、ウメ、ヤブツバキ、ハナノキ(蕾)など。

保全植物が他の植生によって侵食されて危機に瀕している。例えばシャクナゲ、黄実センリョウ、シホウチク、イワウチワなど、周辺整備をしないと次第に消滅すると心配された。

ナツツバキ(夏椿、別名シヤラノキ)、ヒメシヤラ(姫沙羅、別名コナツツバキ)の区別について、木肌を観察しながら実の形、毛の有無、棘の有無など詳細な観察方法をみんなで検討した。このような経験を繰り返すと、我々のレベルアップにつながりそうだ実感した。ちなみにナツツバキの樹皮はサルスベリのように斑模様、ヒメシヤラの樹皮は橙色一色でやや斑になる、の区別法が分かりやすいようだ。後はヒメの名のごとく葉、花、実とも明らかに小さいので区別できる。



■4月11日(土) 10:00~13:00 参加者(会員)6名

今年度からびわ博の森内の解説板や樹名板などをリニューアルする「看板プロジェクト」を計画している。この日は前庭や森の看板の現状を見てまわった。樹木の科名等、詳しい解説のあるものから、カタカナの樹名だけのものまで複数ある。必要最低限の程度を決めて統一したいところだ。樹木が枯れて無くなっているもの、雑草で看板が見えにくいもの、立札形式、木にくくりつけてあるものなどいろいろある。できれば博物館として、貴重な樹木は立て看板、名前だけは知ってほしい樹木は樹名のみのカタカナ看板くらいに選別して、統一性をもたせたいと思う。

樹木に巻きつける名板はメンテナンスが必要だ。他所でつりさげ針金やヒモが食い込んだりしているのを見かけることがある。名札をつけたらメンテナンスも3年に一度は行うなど習慣化したい。

また以前森人で、びわ博の敷地内で「私の木」を選定し、その樹木の姿を一年通して追う活動をしようと提案があった。芽出し、花、結実など興味をひくことも多く、一般に知られていない側面も必ずあるので、刺激になってよい提案だと思われる。そこでこの日は、前代表が観察記録してくれた玄関周辺の樹木以外で、太古の森や縄文弥生の森から「私の木」をセレクトした。どう展開していくのが今後の課題になりそうである。



■4月25日(土) 10:00~12:00 参加者(会員)6名、(博物館職員)林

フォレストマスター夏号の内容について話し合った。

誰の話か忘れたが、人が植物と仲良くなるのは12~13才までに決まるそうだ。ということは、フォレストマスターは小学生5~6年を中心に編集するのがよいかもしれない。若いお母さんも忙しすぎて、子供に花、まして植物の話をする時間も少ないだろう。次世代を背負う子供たちに、一人でも植物好き人間が増える活動を心がけたい。

なかなか夏に見せたい風物がみつからない。ドクダミの花、それもふくよかな八重咲が沢山さいてくれるといいのだが、生長を促す手入れも必要のようだ。

■5月9日(土) 11:00~15:00 参加者(会員6名)、(博物館職員)林

わくたん「春の草花でしおりをつくろう」活動のサポート

参加者にとって、野外の草花観察は本日のハイライト。晴天に恵まれて、比良山系もすっきりみえるなかで、草花の採集はとてもいい思い出になっただろう。進行のガイドも良かった。「花の色、実、葉のいろいろを探そう」「私の好きな草花を一つ選ぼう」など子供の心理をよく読まれた内容だと思われた。パウチカードにすると、手元に残り、思い出と共に植物や花への興味の入口になる。植物から自然に広がり次世代の文化の広がりが感じられ、嬉しい気持ちになる。がんばって応援を続けたい。



【今後の予定】

■5月23日(土)10:00~15:00 河辺いきものの森へ外部観察会

■6月11日(土)10:00~12:00 看板プロジェクトの続き

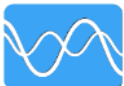
■6月25日(土)10:00~15:00 日吉大社へ外部観察会

### 【活動報告】

2～3月の登録講座で、琵琶湖梁山泊のメンバーが3人に増えました。いずれも4月から中学3年生です。「花の中三トリオ」とでも呼びましょうか。全員がプランクトンに関心があって、「琵琶湖の小さな生き物を観察する会」の会員でもあるので、さっそく4月26日の「観察する会」で研究相談や情報交換を行いました。この中で、新入会員の1人が、3月末にSEMで観察したミジンコの殻の表面構造と、ミズワタクチビルケイソウの胞紋配列に関するレポートを、わずか1か月弱でまとめて持ってきました。ともに中学生離れした優れたレポートでしたが、特に後者はサンプル数を増やして細部を詰めればすぐに論文になりそうな革新的な内容でした。未発表なので、ここで具体的に紹介できないのが残念です。彼は6月20日・21日の日本珪藻学会で、この研究内容をブラッシュアップして発表する予定です。次号ニューズレターでは、少し詳しく紹介できると思います。

### 【活動予定】

琵琶湖梁山泊では、引き続き個人活動を継続するとともに、新規会員を大募集します。他のはしかけグループに所属して研究を進めている中高生の諸君、同年代の仲間たちと研究を進めてみませんか？特に「びわ博子ども若者研究発表交流会」で発表した皆さんや琵琶湖トラストなどの「ジュニアドクター育成塾」を卒業した高校生、研究が進展しすぎて先生の手にも負えなくなった中高部活の集団参加も歓迎します。5～6月のはしかけ登録講座ではしかけ会員になった中高生の皆さん、「琵琶湖梁山泊」の代表アドレスにご連絡を。集え梁山泊へ！



### 【活動報告】

■4月4日(土)13:00～14:00 虹についての相談対応

場所:琵琶湖博物館会議室

参加者3名(はしかけ1名)

虹に興味を持って調べているという中学生(この春から1年生、母親が引率)が訪ねてこられました。気象条件との関連に関する考察や撒水実験の結果について伺い、結果の解釈方法などについて考えられることを助言しました。

### 【活動予定】

■コロナ禍以前と同じような活動は進められない状況が続いていますが、興味を持ってくださる方からは継続的に声をかけていただいていますので、この状況でどのような活動展開が可能かを模索しています。



### 【活動報告】

■令和8年2月12日(木) 9:00-12:00 晴 参加者 5名

1 活動先: 東近江市五個荘金堂町・日野町

2 調査内容と結果

今回は趣を変えて、東近江市にある「鳴らない鐘・コンクリート梵鐘」の存在意味、及び鐘樓の構造について、現地を訪問して調査確認作業を行った。調査の背景には、昭和16年8月の金属類回収令が公布され、官民が有していた金属類が供出の対象となり、全国の梵鐘が供出された事実があり、寺の数が全国最多を誇る滋賀県下が最大の供出先でもあった。供出された梵鐘は銅やスズの含有量成分分析のためにドリルであけられる。数や位置は鐘ごとに違ったようだ。また、溶解を免れた鐘は、昭和20年代前半に各寺に戻されたものが多いようだ。溶解を免れた理由はスズなどの含有量が加工に適しなかったなどの諸説があるが、はっきりしないようだ。

以前、訪問した五個荘金堂町には鐘楼横にコンクリート製の「鳴らない鐘」がおかれている。また、梵鐘自身が現在でも「穴あき梵鐘」として存在している。溶解を免れて戦後、寺に戻されたものだ。なぜ、コンクリート製の梵鐘が必要であったのかは、鐘楼の構造に起因しているようだ。鐘楼は基礎石の上に四本の支柱を置き、梵鐘の重量でバランスを保つ構造になっており、梵鐘がなければ鐘楼自身が崩壊してしまうので、梵鐘にかわる重量物としてこのコンクリート製の梵鐘が必要であったと推測される。あえて、今でも「鳴らない鐘」をおかれているのは、過去への戒めの意味が込められている気がする。

「穴あき梵鐘」を求めて日野町を訪れた。集落の中央に本堂の躰がひと際高く聳え、清掃管理が行き届いた境内は静まり返っている。鐘楼に吊るされた梵鐘の下部に直径 20mmφ 程度の貫通穴が 4カ所あった。供出後、戻された梵鐘の一つである。この地域はほかにも三カ所程度、穴あき梵鐘があるとの情報も得た。

神仏関連(仏具も含め)用品までも供出して金属回収しなければならない、おろかな施策をうたなければならないほどの時の国を動かしていた人々。戦争が破壊そのものであり、新たな希望へとつながらないことを今一度、考えさせられる訪問であったと同時に、構造物としての建築手法のおける先人たちの知恵には驚かされるばかりである。



鳴らないコンクリート製梵鐘



鐘楼



穴あき梵鐘



山門



穴あき梵鐘ガイド



穴あき梵鐘

■ 令和8年3月27日(金) 9:00-12:00 晴 参加者 5名

- 1 活動先: 日野町
- 2 調査内容と結果

前回に引き続き、金属類回収令で強制的に供出したものの、溶融鑄造の難を逃れて地元に戻された梵鐘が日野町内に残っている。当時成分分析のためにドリル穴を開けられ、穴あき梵鐘について、現地を訪問して調査した。

町内にある寺は真宗大谷派に属し、戦国時代に本願寺第九世実如上人に帰依したという満田繁右衛門という武士が、この地に道場を開き、里人の教化に当たったのが創建と伝えられている。江戸時代中期宝永元年(1704)に夜光山教専寺と号して東本願寺末寺となる。この寺の山門は一名閉めずの門と言われており、本堂の正面が綿向神社から大嵩神社への街道に接している事から山門を閉じることが無かったことに由来するとガイド板にある。現在、寺の山門はその街道からわずか北側に入った位置にある。街道から本堂正面に向かう寺自身の参道もあるものの、現在簡単な杭とロープで街道側からの通行が止められている。鐘楼に吊るされた梵鐘には 20mmφ 程度のドリル穴が縦に3ヶ所開けられている。鐘楼の四本柱の根元はいずれの鐘楼も同じ造りで基礎石の上に乗っているだけで特に固定されていない。屋根資材と吊るされた梵鐘が重しとなって台風時の強風や地震の揺れに持ちこたえる構造になっている。本堂の屋根づくりは元来が道場として使われたということもあって、上半分が切妻造、下半分が寄棟造の入母屋屋根になっている。

町内にもう一つの寺があって、立派な山門 本堂 鐘楼が並び建つ。蒲生氏郷の父 賢秀公の菩提寺で、江戸時代初期に日野城内から現在地に移されて今に至るとガイド板にあり。賢秀公の菩提寺は氏郷が移封された会津若松の臨濟宗惠倫寺にもある。この寺の梵鐘は穴の空いた梵鐘とは関わりがないとされる。さらに旧街道を東に1km程進んだ日野川沿いに位置する真宗大谷派の寺があり、創建などは不明であるが、蒲生氏の分家であった音羽氏に関係して戦国期に創建され、後に真宗に転派したとガイド版にあり。寺伝では元龜4年(1573)に創建となっているが、その頃に音羽村における一向宗の中心道場となっていたものであろう。境内に元音羽城内にあったと伝わる八房の梅と称する梅の古木があり、本願寺8世蓮如上人の命名した蓮如梅があり、訪問時は満開状態に咲き乱れていた。山門をくぐって左手に石垣の上に鐘楼が立ち、穴の

空いた梵鐘このシリーズで調査した。日野町内で3つ目の穴の空いた梵鐘が吊るされている。ドリル穴は縦に3つ開けられていて、梵鐘の内側には白筆書きで「滋賀県蒲郡西大路村字音羽村養泉寺」と記されている。梵鐘の外側には「京都市高橋才治郎 鑄」と凸字で鑄込まれている。滋賀県内で戻った梵鐘が、湖南市、甲賀市水口地域、日野町に集中するのはなぜか？ 疑問はまだ解けない。

写真: 鐘楼



執筆者 小篠 伸二



## (22) 内湖を知ろう会

【 活動報告日の活動会員数(のべ) 20名 】

グループ担当職員: 芦谷 美奈子

### 【活動報告】

■2026年4月14日(火) 10:00~12:30

場所: 琵琶湖博物館

参加者: 会員 6人

前回の内湖観察時に遊歩道、湖岸に散乱しているゴミを回収した。そして回収したゴミは家庭用ゴミとして処分した。今後現地調査でゴミを回収した際にどのように処分するかが不明確であったことから、関係する複数の機関に確認した。確認した範囲では、ゴミの処分は回収した人が居住している自治体に家庭用ゴミとして出すことが原則という説明を受け、今後の対応策とした。

目標の一つとしている内湖に関する冊子作成でその内容について意見交換を行った。今後現地調査を行いながら冊子の構成等を検討することとした。また、琵琶湖博物館の電子パネルがより分かりやすい内容となるよう見直し案を提案できるように検討を行う。

■2026年4月21日(火) 14:00~15:00

場所: 西の湖 湖岸

参加者: 会員 1人

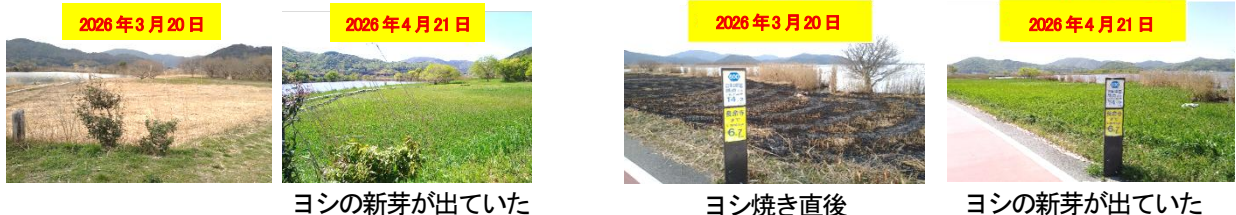
西の湖のヨシ原の様子を観察した。

3月下旬のヨシ焼き前後の時期から1か月後のヨシ原の新芽の出ている様子を確認し、会員と共有した。



出典: 国土地理院ウェブサイト <https://maps.gsi.go.jp/help/intro/index.html>

西の湖園地 の様子



ヨシの新芽が出ていた

ヨシ焼き直後

ヨシの新芽が出ていた

■2026年5月8日(金) 10:00~12:00

場所:琵琶湖博物館

参加者:会員6人

目標としている冊子作成で、その構成について意見交換を行った。冊子を見ていただく方を考慮し、冊子の構成、ページ数、費用、発行回数など引き続き検討を行うこととした。また冊子を発行する際に関係機関の確認、承認などの手続きが必要かを確認する。

内湖調査項目の一つとしてプランクトン観察の提案があり、検討することとした。

打合せなど活動日には目標に沿った活動内容だけでなく、勉強会など学ぶ機会を設けることの提案があり、今後検討する。

また、今後もみんなが活動を楽しめるように取り組む。

■2026年5月22日(金) 15:00~16:00

場所:西の湖(近江八幡市)

参加者:会員7人、会員外4人

成長し始めたヨシを近くで見ながら西の湖の自然を観察しようと手漕ぎ船(水郷巡り)に乗った。

のどかな水郷の風情を味わうことができた。見る、聞く、触れる、味わう、嗅ぐの五感評価や水生植物や鳥などを観察した。

今回の調査結果を踏まえて冊子の構成、内湖の調査項目など、今後の活動方針の見直しを進める。



#### 【活動予定】

■6月3日(水) 現地調査

場所:高島市の乙女ヶ池と近郊の内湖(松の木内湖、五反田沼など)

(文責:服部 敏之)

### 3. はしかけさんが活躍する琵琶湖博物館イベント情報(6月～7月)

※事前申し込みが必要なイベントもございます。また、日程、内容等変更になっている場合もございますので、必ず事前に琵琶湖博物館ホームページの「イベント情報」で詳細をご確認ください。

⇒ <https://www.biawahaku.jp/event/observe/>

タイトル	内容	期日	曜日	時間	場所	備考
【わくわく探検隊】 プランクトンを見よう！	マイクロアクアリウムを 探検します。プランクトン を顕微鏡で観察した後、 それをモチーフにアート 作品を作ります。	2026年 6月13日	土	13時30分 ～ 15時00分	琵琶湖博物館 実習室2 水族展示室	※定員15名(先 着、当日受付) ※参加費 無料 ※小学4年生以下 は保護者同伴 ※雨天決行
ちこあそ・6月 (ちっちゃな子どもの 自然遊び)	博物館の森の中でゆっく りと過ごしながら、五感で 触れて、楽しんで、自然 の面白さを体験する遊び 場です。 6月は、カタツムリやカエ ルに出会えるかな？	2026年 6月17日	水	10時00分 ～ 14時00分	琵琶湖博物館 生活実験工房	※定員10組(先 着、要事前申込) ※参加費 無料 ※未就学のお子 さまと保護者の方 (保護者同伴)
【わくわく探検隊】 骨にふれてみよう！	骨博士から骨について のお話を聞き、普段あま り目にする事のない骨 を実際に見たり触ったり します。	2026年 7月11日	土	13時30分 ～ 15時00分	琵琶湖博物館 実習室2 C展示室	※定員15名(先 着、当日受付) ※参加費 無料 ※小学4年生以下 は保護者同伴 ※雨天決行
ちこあそ・7月 (ちっちゃな子どもの 自然遊び)	博物館の森の中でゆっく りと過ごしながら、五感で 触れて、楽しんで、自然 の面白さを体験する遊び 場です。 7月は、ガチャコンポン プで水遊び！	2026年 7月15日	水	10時00分 ～ 14時00分	琵琶湖博物館 生活実験工房	※定員10組(先 着、要事前申込) ※参加費 無料 ※未就学のお子 さまと保護者の方 (保護者同伴)
「身近な珪藻を観察し てみよう—夏の珪藻 合宿 in 琵琶湖博物 館」	高校生を対象とした、2泊 3日の珪藻研究の合宿講 座で、珪藻の採集からサ ンプルの処理、観察、同 定およびレポートのまと め方までを、徹底的に学 んでいただきます。	2026年 7月25日 (土)13時 ～ 7月27日 (月)17時 まで	-	-	琵琶湖博物館 セミナー室 実習室1 宿泊施設	※定員8名(多数 の場合は抽選) ※申込期限 5月 20日(水)まで ※参加費 無料
生活実験工房 田んぼ体験 昆虫採集	生活実験工房の周辺施 設や水田を利用して、田 園空間の生き物につい て学ぶことを目的とし、そ の一環として、昆虫採集 を体験して頂きます。	2026年 7月26日	日	10時30分 ～ 12時00分	琵琶湖博物館 生活実験工房	※定員20名程度 (多数の場合は抽 選) ※参加費 無料 ※小学生以上(小 学生は保護者同 伴)

## 4. 学芸職員・特別研究員による研究セミナー(6月～7月)

琵琶湖博物館では、毎月第3金曜日に学芸職員・特別研究員による研究セミナーを開催しています。最新の研究成果を一般向けにわかりやすく紹介する講座で、琵琶湖の自然・文化・歴史を深く知ることができ、専門家と直接交流できる貴重な機会です。興味のあるテーマがあれば、どうぞお気軽にご参加ください。

※発表者・タイトルが変更される場合がありますので、必ず事前に琵琶湖博物館ホームページの「イベント情報(セミナー)」で詳細をご確認ください。⇒ <https://www.biwahaku.jp/event/seminar/>

タイトル	内容	期日	時間	場所
2026年度 第3回 研究セミナー	発表者1 大塚 泰介 (微生物学) 演 題「水田における温室効果ガス削減と生物多様性 保全のトレードオフを超えて」 発表者2 横山 将希 (河川学) 演 題「グリーンインフラの推進に向けた河川流域が 有する多様な機能の把握とその保全再生に関する研究」	2026年6月 19日(金)	13時15分 ～ 14時35分	琵琶湖博物館 セミナー室
2026年度 第4回 研究セミナー	発表者1 大槻 達郎 (植物分類学) 演 題「スナゴミムシダマシに付着する表在生物」 発表者2 島本 多敬 (歴史学(近世)) 演 題「普請関係絵図の地図史における位置づけ— 近江の事例から—」 発表者3 寺井 章人 (水産学) 演 題「赤野井湾における在来魚の分布状況について」	2026年7月 17日(金)	13時15分 ～ 15時15分	琵琶湖博物館 セミナー室

## 5. 生活実験工房からのお知らせ

5月10日、快晴でさわやかな風が吹く中、田植え体験イベントを開催しました。

当日はお子さん連れのご家族を中心に、多くの方にご参加いただきました。田んぼに足を入れた瞬間には、「ひんやりして気持ちいい」「泥がぐにゅにゅして気持ち悪い」「田んぼの土ってこんなに重いんだ」といった“身体で感じる驚き”の声があり、参加者の皆さんにとって新鮮な体験となったようです。

子どもたちは最初こそためらいが見られましたが、後半には夢中で苗を植える姿が印象的でした。親御さんからも「貴重な体験になった」との声を多数いただき、イベントとしても大変実りある一日となりました。

### 【次回イベントのご案内】

田んぼ体験「昆虫採集」

日程：7月26日(日)10:30～12:30(受付10:00～)

場所：生活実験工房

内容：「虫架け」のメンバーにお手伝いいただき、生活実験工房の田んぼ周辺や「樹冠トレイル」を中心に、昆虫の採集・同定をします。

※事前予約が必要です。ご興味のある方は、琵琶湖博物館HPのイベント情報でご確認のうえ、是非お申し込みください。

⇒ [https://www.biwahaku.jp/event/2026/07/post\\_1525.html](https://www.biwahaku.jp/event/2026/07/post_1525.html)



▲田植えの説明(たくさんのお子さんに参加していただきました)



▲田植えの様子(どろんこになりながら、田植えをしました)

担当：環境学習・交流係

## 6. その他の事項

---

### (1) はしかけグループの活動に初めて参加する場合

ニュースレター発行後、活動日・活動場所が変更になる場合があります。グループの活動に初めて参加する時は、事前に各はしかけグループの担当者に確認をお願いします。メールの場合はグループ代表アドレスまでご連絡ください。なお、グループ代表アドレスについては、はしかけ登録講座の際にお渡しした資料をご覧くださいか、事務局(hashi-adm@biwahaku.jp)までお問合せください。

### (2) 名札(会員証)の写真について

名札(会員証)の写真を更新されたい方は、はしかけ制度担当者 hashi-adm@biwahaku.jp まで送って下さい。ただし、必ず本人確認ができるものに限りです。

### (3) はしかけ会員証の携帯のお願い

はしかけ活動で来館する場合は、必ず会員証を持参してください。会員証を携帯せずに活動することはできません。

### (4) はしかけ活動中に事故が起こったら

はしかけ会員は、ボランティア保険に加入する必要があります。加入時に、ボランティア保険加入カードが各自に配布されますので、活動中に事故などが発生した場合には、加入者カードに書いてある連絡先(社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会 TEL: 077-567-3920 FAX: 077-567-3923)へ、速やかに連絡してください(各人で連絡)。

なお、手続きには、グループ担当職員(学芸員)の活動証明が必要ですから連絡してください。

詳しくは、最新年度の「ボランティア保険」パンフレットをご覧ください。「ボランティア保険」のパンフレットは、はしかけ事務局(博物館事務学芸室)にも置いています。